

「那賀川・長安ロダム水辺現地調査（魚類）」の 結果速報について

—那賀川下流域及び長安ロダム周辺で初めて確認された希少な魚類—

那賀川・長安ロダム水辺現地調査は、河川を環境という観点から捉え、定期的、継続的、統一的に河川の自然環境に関する基礎情報の収集整備を図ることを目的とした調査です。

◆那賀川・長安ロダムで希少な魚類を確認

調査の結果から、那賀川水系の水辺現地調査（魚類）における初確認種のうち、5種を注目種として発表します。

- ・那賀川の河口～汽水域において、徳島県内での初記録となるオオクチヌメリ、オカメハゼ、県内での記録が稀であるクロホシフエダイ、クロホシマンジュウダイが確認されました。
- ・長安ロダムの貯水池内において、サツキマスが確認されました。降海型のサツキマスは、那賀川や吉野川、海部川の下流域で確認されています。

【参考資料】

- ・各注目種の生態情報等は、別紙-1のとおりです。

平成23年11月28日

国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所

【問合せ先】 国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所

◎副所長（技術） ゆ さ しょうじ 湯佐 昭二（内線205）

工 務 課 長 かたおか しょうぞう 片岡 章三【河川関係】（内線311）

事業計画課長 みやじ まさひこ 宮地 正彦【ダム関係】（内線6121）

TEL：0884-22-6461（那賀川河川事務所）

TEL：0884-66-0121（長安ロダム管理所）

◎主な問い合わせ

那賀川水系で初めて確認された魚類の注目種の情報

- オオクチヌメリ
- オカメハゼ
- クロホシフエダイ
- クロホシマンジュウダイ
- サツキマス（降湖型とみられる個体）

●オオクチヌメリ<スズキ目ネズッコ科>



オオクチヌメリ *Eleutherochir opercularis*
(那賀川河口 2011年10月27日撮影)

〔分布の概要〕

南シナ海、インド洋沿岸、インドネシア、フィリピン及びパプア・ニューギニアなどに分布するとされる。日本における記録は、千葉県夷隅川（1997）と琉球列島（2002）、高知県夜須川（2007）のみである。

〔生息環境〕

沿岸の浅い砂地を生息域とし、汽水域にもみられる。

〔県内の生息状況〕

徳島県初記録である。

〔確認状況〕

那賀川の河口において、秋季調査時に2個体が確認された。

〔特記事項〕

本種の本来の生息域は、南シナ海、インド洋等の熱帯・亜熱帯域とされている。今回確認された個体は、インドネシア、フィリピン等で産卵された稚魚が黒潮にのって漂着し、成長したものと推測される。

このように、本来の暖かい南方の海に生息する魚類が黒潮や台風などによって生息域よりも北部の海岸に流され、冬の低温期を越せずに死滅することを「無効分散」、無効分散を行う魚類は「死滅回遊魚」と呼ばれる。

今回の那賀川における本種の確認は、国内において4例目、四国において2例目である。

●オカメハゼ<スズキ目ハゼ科>



オカメハゼ *Eleotris melanosoma*
(那賀川汽水域 2011年10月28日撮影)

〔分布の概要〕

静岡県以南の太平洋岸各地と琉球列島から知られている。国外では、台湾やマレーシアに分布する。

〔生息環境〕

河口部に生息し、特にマングローブ帯に多い。根際、岩や倒木の下などにひそみ、夜間は外に出てくる。

〔県内の生息状況〕

徳島県初記録である。

〔確認状況〕

那賀川の汽水域において、秋季調査時に1個体が確認された。確認された個体は体長が約30mmと小型であることから未成魚と考えられる。

〔特記事項〕

黒潮の影響の強い太平洋沿岸で未成魚が確認されており、本州・四国付近で確認される個体は死滅回遊魚であると推測される。

高知県では成魚と思われる大型個体（体長178mm）が確認されているが、再生産の有無は不明である。

●クロホシフェダイ<スズキ目フェダイ科>



クロホシフェダイ *Lutjanus russellii*
(那賀川汽水域 2011年10月28日撮影)

〔分布の概要〕

南日本以南、インド・西太平洋に広く分布する。

〔生息環境〕

沿岸の岩礁域やそのまわりの砂地に生息する。

〔県内の生息状況〕

徳島県での記録はあるが、稀である。

〔確認状況〕

那賀川の汽水域において、秋季調査時に1個体が確認された。

〔特記事項〕

確認された個体は未成魚で、4本の暗色縦帯をもち、体側に眼状斑がみられる。

黒潮の影響の強い太平洋沿岸で未成魚が確認されており、本州・四国付近で確認される個体は死滅回遊魚であると推測される。

●クロホシマンジュウダイ<スズキ目クロホシマンジュウダイ科>



クロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus*
(那賀川汽水域 2011年10月28日撮影)

〔分布の概要〕

稚魚は和歌山県以南から知られるが、成魚まで見られるのは琉球列島海域。インド・太平洋に分布する。

〔生息環境〕

成魚はやや濁った内湾を好み、幼魚はほとんど塩分のない汽水域でも生活できる。

〔県内の生息状況〕

勝浦川河口や新町川の富岡橋周辺で確認されているが、稀である。

〔確認状況〕

那賀川の汽水域において、秋季調査時に1個体が確認された。

〔特記事項〕

黒潮の影響の強い太平洋沿岸で未成魚が確認されており、本州・四国付近で確認される個体は死滅回遊魚であると推測される。

● サツキマス<サケ目サケ科> (アマゴの降湖型とみられる個体)

アマゴは、河川残留型・降海型・降湖型の3つの生活型があり、降海型・降湖型の個体は「サツキマス」と呼ばれる。



サツキマス *Oncorhynchus masou ishikawae* (体長約 35 cm)
(長安口ダム貯水池 2011年10月25日撮影)

[分布の概要]

降海型のサツキマスは、伊豆半島以西の本州太平洋側、四国及び瀬戸内海側の九州の河川とその沿岸海域に及ぶ。

降湖型のサツキマスは、琵琶湖や九頭竜川上流域のダム湖で確認されている。四国では、早明浦ダム湖内で2001年に確認されている。また、高知県レッドリストにおいては、「梶原川水系の降湖型サツキマス」が「絶滅のおそれのある地域個体群(LP)」として掲載されている。



アマゴ (河川残留型)
(坂州木頭川 2011年10月25日撮影)

[県内の生息状況]

降海型のサツキマスは、那賀川や吉野川、海部川で稀に確認されている。

[確認状況]

秋季調査時、長安口ダムの貯水池内で1個体が確認された。

[特記事項]

確認された個体は、長安口ダムが下流にあり降海できないため、降湖型個体であると推測される。